



病診連携通信

第7号

公益財団法人
湯浅報恩会
寿泉堂綜合病院
平成27年8月

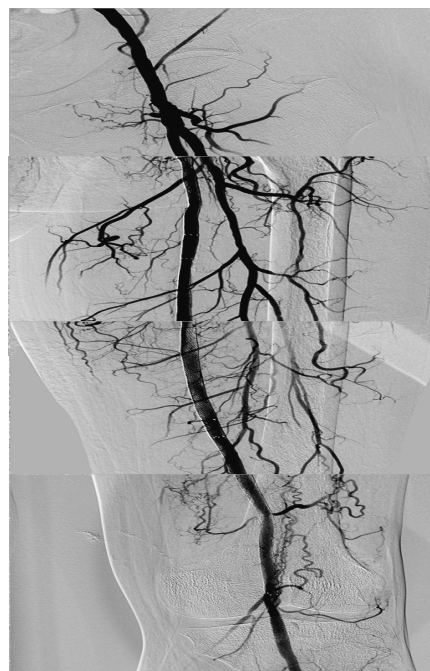
下肢閉塞性動脈硬化症(Peripheral Artery Disease: PAD)について

PADとは、下肢動脈の動脈硬化性病変に伴う血流低下によりおこる疾患です。軽症で足の冷感やしびれを自覚します。放置しておく歩行時の疼痛(休むと症状が軽快する、間欠性跛行という症状です)、さらに安静でも疼痛が出現し、最終的には足先から潰瘍・壊死が進行し、下肢切断もあり得ます。重度の下肢虚血の患者さんは5年生存率が40%程度と極めて予後が悪くなります。そのためPADの早期発見・治療が必要と考えられます。治療は、軽症であれば抗血小板剤や血管拡張剤などの薬物療法や運動療法が主体となりますが、間欠性跛行まで症状が進行した患者さんは下肢の血行再建術が必要となります。当科では最近、PADに対してのカテーテル治療にも力を入れております。心当たりのある患者さんがいらっしゃれば、いつでも当科までご相談ください。

(循環器内科:水上浩行)



治療前の閉塞した下肢動脈



治療後、血行再建した下肢動脈

寿泉堂綜合病院では地域医療支援病院として病診連携を推進しています。

患者さんのご紹介や外来診療に関するお問い合わせは

寿泉堂綜合病院 地域連携室 ☎024-927-0760 (直通) または

☎024-932-6363 (代表)

をお願い致します。